

伊賀市議会政務活動費明細書

伊賀市議会議長 様

報告者  
議員名

宮崎 栄樹

支出項目

調査研究費・研修費・広報費・広聴費・会議費・資料作成費・資料購入費  
人件費・事務所費

(該当項目に○をつけて下さい)

内 容

日付	明細	領収書等の 金額 (円)	按分率	金額 (円)
6/24	宮崎えいき市政レポート 制作費	147,950	2/3	98,633
6/30	市政レポート 折込代 (南ASA工場の販売)	54,230	2/3	36,153
7/4	宮崎えいき市政レポート (株式会社一) 折込料	19,250	2/3	12,833
/				
/				
/				
/				
/				
計				147,619 円



領収書等添付用紙	議員名	宮崎栄穂
調査研究費・研修費・ <b>広報費</b> ・広聴費・会議費・資料作成費・資料購入費 人件費・事務所費 (該当項目に○をつけてください。)		
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">項目ごとに領収書添付</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領収書等は</li> <li>・両面にな</li> <li>添付すること</li> <li>・A4以上の</li> <li>・足りない増</li> </ul>		
詳細情報		
番号	005	るように 添付すること。
日付	2025年06月30日分	
払出金額	54,230円	
預入金額		
取引区分	出金	
残高		
摘要	1)I(I)I(I)カハハイ	
メモ		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <span>前へ</span> <span>閉じる</span> <span>次へ</span> </div>		

領収証

No. 38913

宮崎 えいき 様

2025年 7月 4日

金額 ￥ 19,250 -

但  宮崎えいき市政レポート 2025年夏号 折込料  
 飲食料品等(軽減税率対象) 上記正に領収いたしました

内  
 8%(税込・税抜)金額 消費税額等 /  
 10%(税込・税抜)金額 消費税額等 /

〒518-0729 三重県名張市南町834-1  
 株式会社 工一  
 TEL0595-62-1551 FAX0595-62-1550  
 登録番号:T5190001009546

現金・カード・(銀行振込)

HISAGO#778

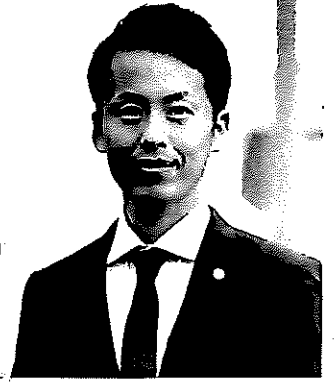
登録番号





# 宮崎えいき市政レポート

2025年夏号



宮崎えいき 40歳

宮崎栄樹 伊賀市議会議員  
会派「草の根・無所属フォーラム」、  
伊賀市議会産業建設常任委員、  
伊賀南部環境衛生組合議会議員、  
伊賀南部環境衛生組合監査委員



Facebook



instagram

三重県伊賀市阿保 821  
Tel. 080-3676-2255  
miyazaki1021@hotmail.co.jp

令和7年2月定例会議

## 稲森市長が施政・予算編成方針を表明



伊賀市議会2月定例会議は、2月25日に開会し、3月25日に一般会計予算469億260万8千円(昨年度比0.9%増)など65議案を可決し閉会しました。

令和7年度当初予算は、これまで積み上げられてきた成果の継承とともに、市民のみなさんと「つながり」を結び直し、新たな政策展開により未来を拓くという意味で、「継承と変革・伊賀の夜明け予算」と位置づけられました。また、予算は「こどもが育つ、大人も育つ」、「持続可能なまちを未来へ」、「対話からはじまる参加と協働」の3つの視点で編成されました。

## 「施政および予算編成方針」の主なもの

広報いが4月号



### こどもが育つ、大人も育つ

#### 子どもの育ち支援

今年度、策定予定の「伊賀市子ども計画」に基づき、ライフステージ別に切れ目のない支援を実施します。また、今後こどもの権利を保障するための条例制定についても、その主役であるこども、若者の参画も得ながら検討を進めます。

#### 図書機能の集約・再編

「伊賀市中央図書館」、JR新堂駅前の「伊賀市北部図書館」、アオーネ内の「伊賀市南部図書館」の3館体制に再編したいと考えます。阿山と鳥ヶ原、大山田地域へは、移動図書サービスを行います。丁寧にご意見を伺いながら進めます。

### 持続可能なまちを未来へ

#### 医療

産科医療は今年4月から市内で分娩できる医療機関が1カ所のみとなります。市民が安心して子どもを産み、育てられる環境を維持継続のための支援を行いながら、地域の産科医療の維持に取り組んでまいります。

#### 農林業

今後の伊賀市のめざすべき農業の将来像を明確にした(仮称)「伊賀市農業振興計画」の策定を令和7年度に取り組みます。関係機関や農業者と連携を図りながら、有機農業をさらに発展させる仕組みづくりと持続可能な農業の実現をめざします。

#### 市道整備

市道印代山神線の柘植川に架かる「山神橋」の架け替えについては、現時点で令和10年度の完成を見込んでいます。また、山神橋から国道422号への接続道路の市道山神大谷線の整備も行う予定です。早期実現に向けて関係機関との協議を継続します。

## 対話からはじまる参加と協働

#### 一般廃棄物処理

持続可能なごみの適正処理の確保に向けて、昨年4月に各市町村の附属機関として、「伊賀市、名張市、笠置町及び南山城村ごみ処理広域化基本構想検討委員会」を共同で設置し、基本構想の審議を進めていただいています。(これまで3回開催)

伊賀市、名張市、笠置町及び南山城村  
ごみ処理広域化基本構想検討委員会



#### 移住・定住

これまで移住コンシェルジュによる丁寧な移住相談や移住後のサポート等により、移住・定住の促進に取り組みました。今後は、各地域の強みをさらに磨いて選ばれるまちをめざし、暮らしやすさに繋がる他施策との連携をしっかりと図ります。

lga-style  
伊賀市移住交流ポータルサイト



#### 住民自治活動

合併から20年が経過し、未来を見据えた地域自治のあり方が問われる中、現在その検討に必要な基礎資料とするため、すべての住民自治協議会に赴き、ヒアリング調査を実施しています。令和7年度から住民自治と「公共」のあり方検討を行います。

## 「継承と変革・伊賀の夜明け予算」の主な事業

広報いが5月号



### こどもが育つ、大人も育つ

- ・市内戦争遺跡フィールドワーク(10万円)  
若い世代への平和意識の醸成を図るため、戦争遺跡を活用したフィールドワークを実施する
- ・伝わる日本語講座(110万円)  
「やさしい日本語」の普及や、地域におけるキーパーソンとなり得る人材を育成する講座を実施する
- ・妊婦支援給付金(4,150万円)  
子育て世帯の経済的負担軽減のため、妊婦1人あたり5万円、こども1人あたり5万円を給付する

### 持続可能なまちを未来へ

- ・産科医療機関支援補助金(1,095万円)  
分娩にかかる伊賀地域の拠点となる産科医療機関の機能を維持継続するために補助金を交付する
- ・災害からライフラインを守る事前伐採委託料(600万円)  
台風などの倒木被害により電線等のライフラインを寸断する恐れのある危険木の事前伐採を図る
- ・地域防犯カメラ設置支援補助金(150万円)  
犯罪の予防を目的として地域が自主的に設置する防犯カメラの設置等にかかる費用を補助する

### 対話からはじまる参加と協働

- ・市長ふれあいトーク  
市民の市政への参加や関心を高めるため、市長が地域へ出向く「市長ふれあいトーク」を実施する
- ・新しい総合計画の策定  
市の最上位計画である第三次総合計画を、特に若者の声をしっかりとうかがいながら策定する
- ・外部有識者による研修会(56万円)  
様々な行政課題に対応できるプロフェッショナル人材を育成するため、職員研修を実施する



ふれあいトーク



## 農業振興計画の策定

宮崎 施政方針では、「来年度から産業農林部を設置し、体制を強化するとともに、めざすべき農業の将来像を明確にした(仮称)伊賀市農業振興計画を策定する」とあります。伊賀市の農業振興は、産業振興だけでなく、農業をされる皆さんが住まれる集落を存続・発展をさせる「地域振興」や「農村振興」という視点が必要だと考えますが、市長の見解を伺います。

市長 集落機能を守ることや、次世代の農業を担う人材育成、伊賀産の農産畜産物や有機農産物などのブランド力を高め販路拡大することなどを旨とし、実効性のある「伊賀市農業振興計画」を策定していきます。議員ご指摘の通り「産業振興」と「地域振興」といった観点も入れながら、農業者や地域のみなさんの声をしっかり聞きながら策定に取り組みます。

## 有機農業の推進

宮崎 施政方針では、「有機農業をさらに発展する仕組みづくりと持続可能な農業の実現をめざします」とあります。昨年7月に名張市と共同でオーガニックビレッジ宣言を行い、行政としても有機農業を進めていく姿勢が示されました。この「仕組みづくり」と、人づくりを重視する市として有機農業者の育成・拡大に向けた取り組みについて具体策を伺います。

3回と導入を拡大することについて見解をうかがいます。学校給食だけでなく、保育園・幼稚園への給食についても、導入をどう進めるのか見解を伺います。

部長 仕組みづくりは、有機農業を生産から消費まで一体となって地域ぐるみで拡大させていくことと考えており、有機農業者と流通業の増加に加えて、消費者意識の向上が必要です。有機農業者の育成と拡大には、新規就農の増加が必要のため、生産技術を向上させるセミナーや販路開拓支援を行い有機農業者サポートするとともに、マルシェで消費者に情報発信をするなどして有機農業への理解醸成を進めます。

部長 令和6年度はセンター方式の小学校給食に有機米を年1回使用しました。令和7年度は、有機米を年2回しようと考えています。令和7年度はセンター方式の小学校が3校増えるため、有機米の使用量も増える計画です。有機農業の推進のための出口(販売先)として学校給食に使用することで地域内の流通と消費を促して、今後も導入拡大に向けた取り組みを進めていきます。

宮崎 有機農業を広げていく上で、学校給食で安定的に買い取ることで、生産拡大や新たな参入が期待できると考えます。現在、学校給食に年1回(有機JAS認証の)お米を導入していると聞いていますが、これを2回、

市長 伊賀市食育推進計画に、特別栽培や有機農産物の導入について明記してありますので、保育園・幼稚園の給食に導入が可能かどうか検討していきます。また、園ごとや地域ごとの導入も検討したいと思います。いずれにしても、オーガニックビレッジ宣言の趣旨や、食育の推進を取り組む中で保育園での導入について皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

## 公共施設最適化計画の見直し

宮崎 施政方針では、「公共施設最適化計画により文化ホールをはじめ様々な公共施設の廃止や統合を進めてきたところですが、今一度、地域力や文化力の低下につながっていないか等の検証が必要だと考えています」とありますが、どのように進めていくのか市長に伺います。また、公共施設最適化計画の見直しをどうするのか伺います。

## 図書館機能の集約・再編

宮崎 施政方針では、図書館の配置を市内5か所から3か所に再編し、図書室が廃止される地域には移動図書館による巡回サービスを開始するとしながら、「市民のみなさんの利便性向上と読書活動の充実につながるよう丁寧に意見を伺いながら進めてまいります」とあります。再来年度には、鳥ヶ原と大山田の図書室が廃止される予定です。住民からはサービス低下の懸念の声を聞きますが、これからどう進めていくのか伺います。

市長 4月に設置する公共：人づくり推進課において、「公共の検証」を所掌事務とし、公共施設最適化計画の取り組みについてしっかり検証を行っていきます。持続可能な公共サービスを実現できる範囲内で、公共施設最適化計画を見直すことが相当であると判断できた場合には、担当課による公共施設最適化計画の修正について議会にお諮りすることを考えていきたいと思います。

教育長 図書館が廃止される地域には移動図書館を巡回させる予定です。鳥ヶ原や大山田地域へは、読み聞かせ活動されている方々含めてご意見を丁寧に伺い、地域と協働しながら移動図書館との連携による新たな活動の場を作っていきたいと思っています。自習スペースの設置についても、住民のみなさんと関係部署で協議を行いながら取り組みを進めていきます。

## 産業振興条例のPDCAサイクル



伊賀市産業振興条例

宮崎 施政方針では、産業振興条例について、「市の役割として、条例の普及・啓発を強化するとともに、基本理念に基づき各主体が相互に連携・協働して行う取組について、PDCAサイクルの循環を意識し、より実効性のある条例展開を検討していきます」とありますが、具体的にどのような展開を考えているのか伺います。

## 市職員の働き方改革

宮崎 窓口の時間短縮について伺います。ここ最近、他自治体においても窓口の時間短縮の導入が増加しています。目的は、時間短縮により、職員のライフワークバランスを実現させて、市民サービスの向上や業務改善などを図るというものです。県内では、熊野市や名張市、松阪市、三重県警において、導入が検討されています。導入の必要性について、市の見解を伺います。

市長 産業振興条例の「PDCAサイクルを回す」ということは、施政方針にこだわって入れました。行政はどういう条例であっても実効性をもって取り組まなければいけません。まずは、庁内で条例の理念を意識した事業展開が重要です。そのうえで市民や関係者の皆さんへの認知度を高め、産業振興計画を策定して具体的な取り組みや仕組みづくりを考えしていきます。

市長 サービスの多様化と人口減少が進む現代では、働き方改革は重要なテーマであり、市役所でもそれを実現するための取り組みが必要だと感じます。市役所窓口の時間短縮は職員の業務負担や多忙化を軽減し、効率的に業務を運営するための重要な方法であると思います。市民のみなさんのへの利便性への影響を検討しながら、窓口時間短縮について早急に結論を出したいと思っています。



## 学校給食の取り組みが広がります

### 地産地消の取り組みが拡大!

市内産の食材を利用した「いがスマイル給食」の予算が、昨年度から約700万円増の2,843万2千円となりました。これまで月2回程度、伊賀牛や野菜、果樹などが使用されてきました。今年度は予算増により、回数の増加やグレードを上げた食材の使用が期待されます。

### オーガニック給食が前進!

昨年度から、伊賀市では「オーガニックビレッジ宣言」と「有機農業実施計画」に沿って、地元産の有機米を学校給食で使い始めました。今年度は、有機米を使う回数が2回に増える予定ですが、必要な量を確保するのが難しい状況です。今後、オーガニック給食をさらに進めていくためには、安定した供給に向けた取り組みが欠かせません。